

第四回「松濤中学校建て替え準備委員会」を実施しました

第四回委員会では、これまでに検討した内容を基本計画の素案として振り返るとともに、建て替えのコンセプト案や、施設規模の想定を提示しました。また、渋谷区の公立学校事例の紹介や、一足制の導入検討の説明を行い、運用面も含めた具体的な意見交換を行いました。

第四回委員会実施日時等

実施日時：令和5年6月13日（火） 15時30分～16時50分

会場：松濤中学校 少人数教室

発行年月日：令和5年7月25日（火）

発行者：渋谷区教育委員会事務局

住所：〒150-8010 渋谷区宇田川町1番1号 区役所4階

問い合わせ先：電話：03-3463-2795 Mail：sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo

第四回委員会 議題

①「新しい学校」のイメージ紹介 〈渋谷区の学校事例〉

② 基本計画素案の説明

③ 一足制について

④ 主な意見交換

①「新しい学校」のイメージ紹介 〈渋谷区の学校事例〉

区内2校の公立学校事例を紹介しました。渋谷本町学園の教室は、扉を開けてオープンにも、扉を閉めてクローズにもできる設えとなっています。上原中学校は、教科ごとに専用の教室がある「教科教室型」のつくりになっています。事務局が学校で見学させていただいた、教室から廊下までを使ったグループ学習の様子もご紹介しました。また、渋谷区で目指している「シブヤモデル 新たな学び」（個別最適な学びと協働的な学びの実現）について、考え方をご紹介しました。

渋谷本町学園



扉をすべて開けた状態の普通教室

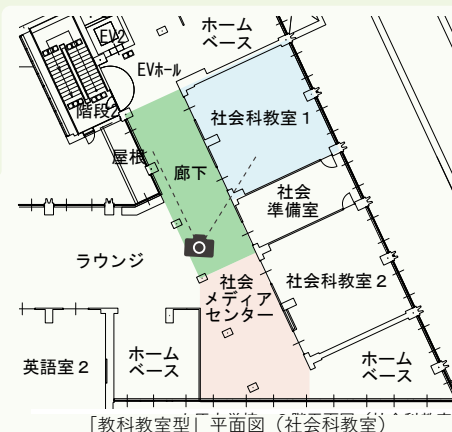


扉とカーテンを閉めた状態の普通教室

上原中学校



廊下を使ったグループ学習の様子



② 基本計画素案の説明

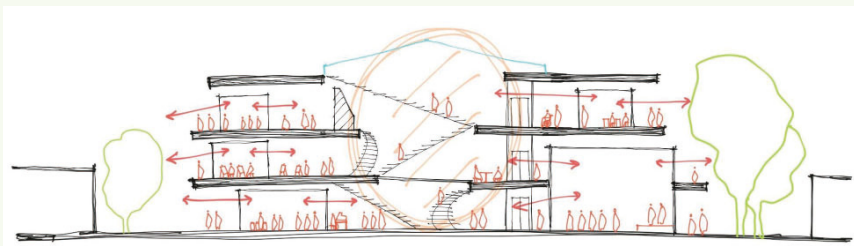
松濤中学校建て替え基本計画の素案として、これまで検討してきた諸室・建物配置・機能ゾーニングに加えて、建て替えのコンセプトと、施設規模の想定を説明しました。

新しい学びの空間のための建築コンセプト（案）

1. 多様な学びがひろがるラーニング・コモンズ
2. 場所が持つ特性を活かした環境計画
3. 地域に開いた、地域が誇れる学校

松濤中学校の空間計画のコンセプト（案）

- ・建物中央の谷のような広場全体が立体的なラーニング・コモンズになります。ラーニング・コモンズを介して、学校全体に街のような学びの一体感が生まれます。
- ・1階に、特別教室や図書室、体育館、多目的室などを配置し、地域開放を検討します。
- ・2-3階には、生徒や先生のための学校機能を配置します。
- ・屋外階段を校庭側に設けることで、運動場と連続的につながる外観とします。



イメージスケッチ

※ラーニング・コモンズとは、子供達がタブレットや本で情報収集しながら主体的に学べる共有空間です。一人で集中する学び、グループで協働する学びなど多様な学習スタイルに対応しています。

施設規模（案）

建築面積	： 4,000㎡程度
延べ面積	： 10,000㎡程度
階数	： 地上3階 地下1階
建築物の高さ	： 12.8m程度（一部最高の高さ14.8m程度）
構造	： 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造（想定）

③ 一足制について

「一足制」は、上履きを使わずに、下足のままで校舎や校庭等の利用を可能とする制度です。

一足制の導入を含めて検討するために、運用面や、校庭舗装等について、メリット・デメリットを比較しながら意見交換を行いました。

一足制の主なメリット

- ・教室での活動を校庭やテラスにも拡張できる。
- ・休み時間に生徒が校庭を利用しやすくなる。
- ・災害時に避難経路を複数確保しやすい。
- ・施設のバリアフリー化を図りやすい。
- ・より積極的な地域利用を検討しやすい。 など

一足制の主なデメリット

- ・校内の美観保持のため、泥や砂を持ち込みにくい舗装仕様とするなどの対応が必要となる。
- ・雨天日の衛生面や運用方法の課題がある。 など

④ 主な意見交換

Q イメージスケッチでは、屋外階段を使ってグラウンドに降りられるようになっていますが、その必要性はありますか。

A 休み時間などに教室から直接グラウンドに降りられることで、生徒の運動や活動の活発化に繋がると考えています。また、災害が発生した場合の避難の際にも活用できます。

Q 一足制を導入して、上履きのまま教室からグラウンドに出ることになる場合、校庭舗装は必然的に人工芝になりますか。

A 一足制を導入した場合は、人工芝の採用が運用面において優れていると考えますが、舗装の種類ごとのメリット・デメリットや校庭の使い方などを踏まえた上で、一足制の導入の採否と併せて検討していきます。